

日中韓の大学連携で 水環境技術者を育成

9月7日、来年度4月に新設される工学研究科の博士前期課程（総合工学専攻）に、「日中韓の大学間連携による水環境技術者育成」水環境の保全と持続的利用を支える技術の東アジアへの展開」という特別プログラムを設けることを発表しました。

これは、中国や韓国から留学生を受け入れ、将来、東アジアの水資源の環境保全と持続的利用に関する問題解決に貢献できる技術者を育成する取り組みで、文部科学省が創設した「日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業」の一環（47大学から申請された事業企画の中から選定された6件のうちのひとつ）です。

中国や韓国の10大学とコンソーシアム（連合）を組織し、国内の水環境技術関連企業とも連携。3カ月の長期インターンシップなど、実践的な教育プログラムで企業の即戦力となる技術者を育成します。本事業を通して、東アジアの各地で問題になっている河

川汚染の改善や安全な飲料水確保などに貢献することが期待されます。



特別プログラムについて発表する
中田英昭教授（生産科学研究科長）ら

盛況！ 第2回長崎大学 ホームカミングデー

11月20日、「第2回長崎大学ホームカミングデー」を開催しました。当日は長大祭で賑わう文教キャンパスを会場に行われ、卒業生の皆様に母校長崎大学に帰って来てもらい、大学の近況に触れ、懐かしい恩師や学友と再会し、親睦を深めて頂きました。今回は卒業生約160名、名誉教授の先生方多数が参加され、賑やかに旧交を温めました。

中部講堂では、本学ロマンツァー合唱団による長崎大学学歌のオープニング演奏に始まり、

片峰学長の歓迎の辞、井石全学同窓会会長の挨拶と続き、本学チアリーディング部の華麗な演技が行われました。講演会は宇宙航空研究開発機構（JAXA）技術参与・名誉教授の川泰宣先生による「『はやぶさ』プロジェクトのすべて」と題し、世界的に注目された話題とあつて会場には多くの在学生、一般の方も聴衆に参加されました。最後に本学吹奏楽部と管弦楽団による演奏が行われ、参加者は心行くまで楽しんでいました。



的川泰宣先生



管弦楽団演奏

夕方からは「ホームカミングデーパーティー」が学生会館食堂で開催され、同窓生や名誉教授の先生方をはじめ大学関係者、在学生も交えて賑やかに歓談し、本学空手道部、よさこい部「突風」の演技が行われ、参加者の輪が幾重にも広がり、感動の中で閉幕しました。

ゴードン・ベル賞を 2年連続受賞

先端計算研究センターの濱田剛准教授のチームが、高性能計算の世界で最も権威のあるゴードン・ベル賞を2年連続受賞しました。

受賞した研究論文は、576台のGPU（コストパフォーマンスに優れたグラフィックス向け汎用プロセッサ）を並列に動作させることが可能なスーパーコンピュータ「DEGIMA」を開発し、天体物理研究における応用計算で、190テラフロッパス（毎秒190兆回計算）の実行性能と低コスト化に成功した研究成果をまとめたものです。

今回の受賞は、昨年よりも性能を高め、世界最高の

価格性能を実現したことが評価されたもので、11月13日から19日にかけて開催された国際学会「Super computing 2010」（米国ルイジアナ州ニューオーリンズ市）において決定し、18日に表彰されました。

現在、この研究成果をもとに国内外の大学と共同研究が行われ、宇宙に関する研究をはじめ医学、経済学など様々な分野における応用研究に発展しています。



濱田剛准教授



受賞した「DEGIMA」システム